

......*...*...*...*...*...*...*...*

OFG

**大山崎ふるさと
ガイドの会だより**

......*...*...*...*...*...*...*...*

発行日 令和2年1月1日

発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)

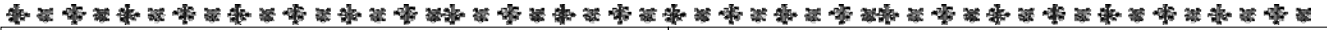
発行責任者 澤田 僚一

連絡先 大山崎町歴史資料館内

TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289

URL <http://www.kyoto-ofg.org/>

第158号



新年のご挨拶



会長 澤田 僚一

明けましてお目出とうございます。皆様そしてご家族が健康で過ごされ、穏やかな一年でありますようにお祈り致します。

わたし達ガイドの会は多くの人達に大山崎の素晴らしさ、地名度は低いけれど優れた文化財の紹介、古戦場としての天王山紹介や自然保護にも努めております。

令和2年はNHK大河ドラマ「麒麟がくる」が放映され、より多くの訪問者を我が町に迎えると思われまます。そして東京オリンピック、パラリンピックの開催年です。

我が会も平成8年1月に創立し、24年目を迎える事になります。何処の会でも同様だと聞きますが、会員の高齢化、行動力の低下に悩む昨今です。標高270mの天王山に登るのが一苦勞の会員も増加しています。三役などの役職に就くことを極端に回避しようとする会員も多いのが現状です。多くの悩みを、いかに対処すべきか、組織をどう変更すれば良いのか、諸問題を是正すべく会員の英知を結集してゆかねばならないと思います。

体力の衰え、意欲の減退、頭脳の衰えも(特に私には)深刻。3年に一度、養成講座が開講されています。昔は講座の録音のテープ起しをして文書に残してい

ました。今日、そんな手間暇をかけて記録を残す意欲も努力もなくなりました。総ての講座については無理でしょうが、せめてセレクトした講座の文章記録を残せないだろうか。IC機器を利用して、より少ない労力で資料作りが出来ないかと考える昨今です。

京都市内を歩くと英語や中国語、韓国語を話すインバウンドさんも多い。それらの人達が大山崎町で見られる事は未だ少ない。しかし、何らかの対策をしておくべきでしょう。オリンピック観戦で訪れるインバウンドが関西方面に流れて来る、大山崎町にも来ると考えられます。藤原前会長が提唱された事を少しずつ実施して、やっておきたいですね。

京都府や大阪府が主導する地域おこしの会合に出席する機会も多いです。本会で当然の手順として長年続けてきたシステム、会運営の手法も、他の地域の会では実施されておらず、我が会の工夫された、優れたシステムを誇りに思う事も多いです。先輩諸氏の努力、知恵の結集であろうと思います。しかし、新しい事に挑戦しないネガティブな考えに陥り過ぎている面もあると、私は見えるのです。

山々を彷徨するマウンテンアの私は、未知のルートに数多く足を踏み入れ、新しいルートを歩いて来ました。不安に耐え不確定な要素を乗り越えてきました。想像外の体験をして、進んで来た山道。細やかな発見が有り素晴らしい体験をさせてもらいました。

多少のリスクはあるでしょうが、本会もかくありたいと願うものです。これからも、より良い発展を続けるべく知恵を貸して頂きたいものです。

11月10日～12月31日までの活動実績

1. 主なガイド

- ・11月11日(月) 南山大学イスパニア科<同窓会> 9名
- ・11月14日(木) うれしの21会(日本エース観光) 13名
- ・11月17日(日) 長岡京市スポーツ推進委員協議会 39名
- ・11月18日(月) 久御山町教育委員会 24名
- ・11月19日(火) 静岡地理教育研究会 12名
- ・11月20日(水) 36歩く会 21名
- ・11月24日(日) 山陽バストラストツアー 18名
- ・11月29日(金) 山南町歴史探訪友の会 95名
- ・11月30日(土) 香川県中国研究会 22名
- ・12月14日(土) 大山崎町政策総務課企画観光係 10名

2. 会の行事など

- ・11月25日(月) 「あちこち学習山歩」周山城跡 15名
- ・12月16日(月) 「あちこち学習山歩」飯盛山 10名

- ・12月18日(水) 会員学習会「禁制について」 39名

活動予定

主なガイド、行事予定

- ・1月7日(火) 姫路観光ボランティア・ガイドの会 2班
- ・1月15日(水) 銀のステッキ旅行 3班
- ・1月15日(水) 大阪府高齢者大学校 3班
- ・1月16日(木) 新春のつどい 全班
- ・2月29日(土) 歴史講演会・OFG主催 全班
- ・3月7日(土) 写経と散策 1班
- ・3月24日(火) (株)自然総研 全班
- ・3月28日(土) 水辺の散策 4班
- ・4月18日(土) 大阪滋賀県人会

☆ アサヒビール大山崎山荘美術館 企画展

12月14日(土)～3月8日(日)

「清宮質文展 一限りなく深い澄んだ空気」

11～12月ガイド実績

	一般ガイド		歴史資料館		おおやまざき・なび		合計	
11～12月	32件	526人	209件	552人	37件	126人	278件	1,204人
2019年度累計	97件	2,331人	827件	1,980人	144件	380人	1,068件	4,691人

バス研修

「法隆寺と朝護孫子寺」に参加して



飛鳥時代のもので世界最古の木造建築である。

今回初めてガイドによる説明を受けたが、しおりを読みながら眺めるのとくらべ、理解が深まった気がした。

朝護孫子寺は、「信貴山縁起絵巻」だけの小さな寺と思っていたが、想像を超える大伽藍にびっくり！

2016年に国立奈良博物館で出会った『山崎長者の巻』

12月4日(水)、参加者38名でのバス研修がスタート。この日のみ晴天。

法隆寺は国宝が137点(うち、建物47点)で、甲子園球場の7倍の敷地を持つ大伽藍。特に、中門、廻廊、五重塔および金堂は

が大山崎を舞台にしていることを知ったことが、私が郷土に興味を持つきっかけにもなった。

法隆寺と朝護孫子寺の現地ガイドそれぞれに『かなり広範囲の情報を必要とするので大変ですね。』と尋ねたところ、お二人ともさらっと『逆にお客様から教えていただくことがたくさんあります。』とおっしゃった。

ガイドをしていくことが大きなプレッシャーとなっている私に、「完璧な説明をしなければと必要以上に構えず自然体でやっていこう」と気づかせてくれた研修となりました。(3班 田口 准 記)



歴史ウォーキング

山科を歩く



10月28日(月)、木犀の香りが残る秋の日に山科の柳辻駅で下車。駅前では柳の木がお出迎え!木村氏のガイドでまずは坂上田村麻呂の墓所西野山古墳へ、教科書で習った征夷大將軍はひっそりと祀られていました。

山科盆地は三方を緑の山に囲まれ、中央には山科川が流れ旧安祥寺川との合流点から北方一帯に中臣遺跡が広がっています。

旧石器時代後期のナイフ型石器をはじめ土器や住居跡なども発掘され、縄文時代から人が住み、多くの文化の足跡を残してきたようです。

又、モルガンお雪も信仰したという折上神社から花山稻荷神社へ進み、大石神社でランチタイム。

岩屋寺は大石内蔵助の隠棲地であり、ここで密かに討ち入りの謀をめぐらしたそうです。

今までは通り過ぎるだけの山科でしたが、まだ全容が明らかになっていないという遺跡にはどのような古のロマンが詰まっているのでしょうか!

(4班 宮崎 登喜恵 記)

歴史講演会

明智光秀をめぐる英傑たち



11月2日、「麒麟がくる 明智光秀をめぐる英傑たち」一將軍足利義昭と細川藤孝、そして織田信長一の演題で、小山工業高等専門学校の山田康弘氏が講演されました。

光秀の登場から本能寺の変まで歴史教科書で幾つかの事実を習いました。13代將軍・足利義輝の暗殺。信長と15代將軍・足利義昭との協力そして離反等々。

今回それらの事実を分かり易く話され、断片的であった歴史的史実がつながりました。レジメは簡潔、私にも分かり易く有難かったです。

備中高松城から中国大返しをした秀吉。それは秀吉軍陣所に届けられた手紙を見たからだか、何故偽手紙ではないと思ったのだろうか。秀吉も信長謀殺にかかわっていたのかなと疑問を呈せられました。

考えもしなかったので私は驚き感心しました。

(2班 澤田 僚一 記)

歴史講演会

織田権力の政策と明智光秀



11月4日、福島館長を講師に歴史講演会「織田権力の政策と明智光秀」が、ふるさとセンターにおいて開催され、通路も埋まるほど160余名の方々が聴講されました。

講演では、最初に織田信長は革新的、明智光秀は保守的という今までのイメージを覆す文書が見つかり、織田権力の実態を洗いなおす研究が進んでいる事が紹介されました。

織田信長は、部将にその地域の軍事統率権・知行宛行権などの権限をゆだねつつ短期間での成果を求め、その評価を信長が城破、国替などの行使で権力を保持した。

その中で明智光秀が担った奉行的役割や丹波攻略について文書をもとに分析され、織田政権での光秀の功績や先見性、さらには国衆支配での苦勞にふれながら、本能寺の変の直接的動機はともかく、根本的原因は部将を意のままに扱おうとする信長と、石高差や諸条件を無視された部将の間の矛盾にあるとの結論に納得し、家路につきました。

(3班 加藤 文則 記)

山南町歴史探訪友の会同行ガイド記

11月29日(金)、前日の肌寒い天気とうって変わって風もない上天気の中、丹波市山南町の歴史好きな95名の皆さんを天王山コース(6班)と山麓コース(4班)に分かれてご案内しました。

私は山麓コースを担当しましたが、離宮八幡宮で荏胡麻の話をしていた時、その荏胡麻を栽培しているという人があり、ガイド(私)に代わって詳しく説明して頂いたところガイドとお客さん、またお客さん同士の距離がぐっと近く感じました。

その後は、和気あいあいと巡ることができ、ガイドをするときガイドとお客さん間の距離を縮めることも非常に大事なことと再認識しました。

大山崎町は初めて訪れるという人が多かったが、観音寺と大山崎山荘美術館の燃えるような紅葉や竹林のこみちからの雄大な景色また山崎合戦など大山崎の魅力を充分に感じてもらえたのではないかと推察します。(1班 森脇 剛 記)